

# 10年目を迎えたキャンパス・パーク連携

～風光明媚な須磨の地 神戸市立須磨離宮公園で学ぶ学生たち～



## 全国初 大学と公園が協力するキャンパス・パーク連携

平成18年に神戸女子大学は神戸市立須磨離宮公園と連携して、地域の活動を積極的に進め、地域の活性化をはかるとともに、神戸の市民文化の向上に寄与することを目的として、全国初の大学と公園の「キャンパス・パーク連携」協定（以下C・P連携）を結びました。今回の特集は、平成28年12月で10周年を迎えるC・P連携について、最新の取り組みやこれまでのあゆみを中心にお伝えします。

### 10年目を迎えたキャンパス・パーク連携

神戸女子大学 地域連携推進委員会 委員長(家政学部 教授) 梶木 典子

神戸女子大学須磨キャンパスに隣接する須磨離宮公園は、風光明媚な月見山とよばれる場所に位置し、本学とほぼ同時期に開園・開学し、須磨区の文化エリアを形成してきました。

平成18年12月には、全国初となる大学と公園のC・P連携を締結しました。この連携により、神戸女子大学の学生と教職員は、須磨離宮公園へ自由に入出りできるようになり、教育・研究の多様なシーンで活用が展開されるようになりました。隣接する公園だからこそ、日常的に学生たちが立ち寄りやすく、身近に感じることができます。

須磨離宮公園は四季折々に美しい花や景色を見ることができます。五感が刺激される自然、歴史と文化が凝縮された空間は、学生たちの自発的・体験的な学びに大いに役立っています。須磨離宮公園には、まだまだ魅力がたっぷりと詰まっています。これからも第二のキャンパスとしてさまざまな取り組みを展開していきたいと思えます。



## 神戸市立須磨離宮公園

前身は、宮内省(当時)が明治44年～大正3年にかけて造営した皇室の別荘「武庫離宮」。大正天皇や皇太子時代の昭和天皇がご利用。終戦後、昭和42年5月に自然と美しく調和した近代的な欧風庭園「須磨離宮公園」として開園。約82haの広大な敷地は、噴水広場、王侯貴族のバラ園がある本園と、観賞温室、梅園などがある植物園から成り、四季を通じて憩える公園で、平成元年に、「日本の都市公園100選」に選定された。本誌「神女広報」の表紙で、同園のバラを紹介している。



## 教育の場

### 🌸 全学共通教養科目に継続ボランティア「めざせ!ローズ・マスター」が加わる

地域連携推進委員会が開講する全学共通教養科目「地域学習」は、建学の精神に基づき、学生が地域の中で体験的に「自立心・対話力・創造性」を育むことを目的とし、学生の積極的な地域連携活動への参加を促す授業です。

授業では、学生はさまざまな地域連携活動に参加しています。平成27年度からは、新たに須磨離宮公園と共同で実施する“Study&Funプロジェクト「めざせ!ローズ・マスター」”と題した継続ボランティアの活動が加わりました。

本活動は、須磨離宮公園において、学生が継続的にバラの手入れや園内ガイドを経験し、バラに関する知識を深め、技術を習得するとともに、地域住民と学生との交流をはかることを目的としています。平成27年度は、8名の学生が参加しており、同園職員の協力で週1回の活動を行っています。本活動のスタートから、学生は園内のバラを観察し、秋には本学オリジナルの「ローズ・カタログ」を作成しました。須磨離宮公園がもつ豊かな自然空間・文化資源を生かした本活動は、参加している学生からの評価も高く、楽しみながら活動している様子がうかがえます。



花から摘みを行う学生

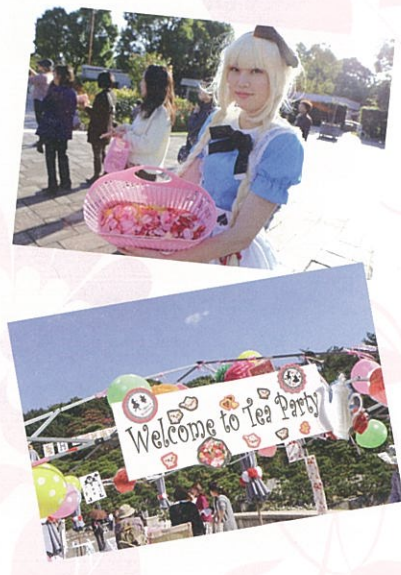


神戸女子大学オリジナル「ローズ・カタログ」を手にする学生

### 🌸 恒例の「ローズ・フェスタ」で女子大生の感性を発揮!

「ローズ・フェスタ」はC・P連携事業として、毎年、須磨離宮公園で実施している本学主催の音楽祭です。9回目となる平成27年度はイベントのテーマを“Wonderful Time ～素敵なひとときをお届けします～”とし、10月25日(日)に開催しました。

このイベントでは、例年、複数のクラブがステージで演技披露を行ってきましたが、さらに来園者へ同園の魅力を発信するため、新たに学生の感性を発揮したバラを題材とするスペシャル企画も多数実施しました。その結果、来園者にはステージ周辺だけでなく、王侯貴族のバラ園やメインフォールなど公園全体でイベントやバラを楽しんでもらうことができ、須磨離宮公園のバラと学生たちのアイデアが融合した音楽祭となりました。



共同研究

宮内庁所蔵「武庫離宮」資料の調査・分析を行い、傘亭復元事業にも貢献

文学部史学科の梶木 良夫准教授は、C・P連携に基づく共同研究の一環として、須磨離宮公園の前身である「武庫離宮」に関する諸資料の収集と分析を行いました。

須磨離宮公園は、昭和20年の空襲でそのほとんどが焼失した「武庫離宮」跡に整備されています。平成18年から市民、各種団体、企業の協力で「傘亭」(傘形の四阿舎)復元の取り組みが始まり、その過程で梶木准教授は、「武庫離宮」建設の資料で現在宮内庁宮内公文書館に所蔵される「武庫離宮新築工事録」(全42冊:以下「工事録」)の原本の調査と分析を進め、「工事内訳書」や「工事仕様書控」および付属図面などを解読し、その成果を「2008年度須磨離宮公園学連続講座」で発表しました。さらに平成20年には、焼失を免れて原位置に残存していた青銅製擬木柱の頭部に残った部材と屋根組との接合状態などを記録する、神戸大学建築学教室の調査にも参加しました。



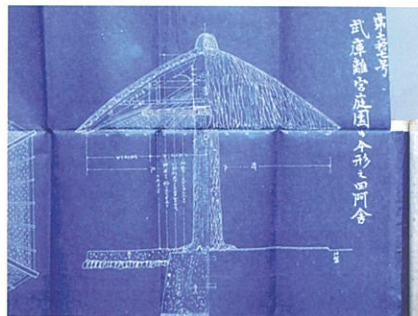
復元された傘形四阿舎。全国でも珍しい竹穂葺六角形の屋根



梶木良夫准教授

復元作業は、焼失した竹穂葺六角形の屋根を「工事録」の材料表および建築仕様書に基づいて忠実に再建する方針で進められ、平成23年に完成しました。

また、復元活動が進められる中で、平成21年に武庫離宮建設に関係した個人の子孫が保管してきた『武庫離宮誌』が発見され、「工事録」にはない離宮建設当時の写真や従事者の管理マニュアルなどの新出資料が含まれていることが判明し、梶木准教授はその成果を平成22年に開催された「武庫離宮展」で発表しました。



「傘形の四阿舎」図面(部分)  
神戸市立博物館所蔵「武庫離宮誌」下巻所収

ボランティア活動

神戸まつり「須磨音楽の森」

バラの花が最も美しい5月に開催される「須磨音楽の森」は、毎年多くの人々にぎわうイベントのひとつです。

噴水広場に特設ステージが設置され、さまざまなパフォーマンスがくり広げられます。園内には、模擬店、イベントブースが並び、フィナーレには花火が打ち上げられます。

神戸女子大学は、二つの寮(行幸寮、天神寮)の学生が中心になって、受付・案内、運営補助、清掃活動の協力を例年行っています。平成27年には34名の寮生が参加しました。



須磨音楽の森でのボランティア



ローズキャンドルナイト ハロウィンフェスティバル

秋のローズフェスティバルの一環として開催される「ローズキャンドルナイト」も神戸女子大学の学生が運営を支えます。「ハロウィンフェスティバル」がテーマで、「神戸キャンドルナイト実行委員会ホウキ星」のスタッフと協力しキャンドルの準備や点灯などを行い、イベントの受付、子どもたちのかぼちゃランタンやオリジナルキャンドルホルダー作りの補助をします。平成27年は15名の学生が参加しました。



キャンドルナイトのボランティア



## キャンパス・パーク連携の主なあゆみ

平成18年12月	神戸市立須磨離宮公園と「キャンパス・パーク連携」締結
平成19年 4月	家政学部家政学科がオリエンテーリングを実施(以降、毎年実施)
平成19年 5月	神戸女子大学音楽祭「ローズ・フェスタ」開催(平成23年以降、毎年秋に開催)
平成19年 5月	文学部教育学科 中山ふみ江教授担当「レクリエーション実習」の一環として「バラ探検ラリー」を開催(以降、毎年開催)
平成19年 6月	須磨離宮公園より神戸女子大学へ「アンネのバラ」寄贈、植樹
平成19年 9月	「月見の宴」に参加(以降、毎年参加)
平成19年10月	連続講座「須磨離宮公園学」開催
平成19年11月	子育て広場「あいあい」開催
平成19年11月	「秋の洋らん展」に神戸女子大学生賞(コベリーヌ・オーキッド賞)誕生(以降、毎年審査)
平成19年12月	「薔薇の花プレゼント」企画に参加
平成20年 3月	「あじさい植樹」を実施
平成20年 6月	須磨離宮公園と共同で「傘亭復元事業」を実施
平成22年10月	キッズオープンキャンパス「離宮手作り・クラフトアートフェア」に参加
平成24年 9月	兵庫県レクリエーション課程認定校連絡協議会 学生合同研修会「逃走中」を実施
平成26年10月	家政学部家政学科 岡本陽子教授の研究室が「武庫離宮造営100年記念行事」に参加
平成27年 4月	全学共通教養科目「地域学習」須磨離宮公園においてオリエンテーリングを実施
平成27年 6月	継続ボランティア活動「Study&Funプロジェクト「めざせ!ローズ・マスター」」始動



今後はC・P連携締結10周年に向け、  
さらに教育・研究の両側面から  
連携事業の充実を図っていきます。

